

かがやく

特集 世代をつなぐ生涯学習

培われた夢を受け継ぎ“追いつけ 追い越せ”
自分の可能性に挑む人たちに出会いました。

「職人四代人宝」 ひとだから

翠松堂 松井木地製作 松井雄司さん

SAIOSのさんかく橋近く、通りに面した所に、木と硝子が懐かしい佇まい、金文字で翠松堂と書かれた板張りの細工場。何のお店だろうと足を止めたことはありませんか？そこが社寺仏具を専門に製作し営む松井雄司さんの仕事の場です。

雄司さんは職人四代目。初代は鍛冶職人だった嘉蔵さん。その息子で二代目が鍛冶職人であり建具職人でもあった福太郎さん。そして三代目が今の雄司さんの父親の仙太郎さん。その仙太郎さんは建具職人でしたが、普通の建具だけに満足せず、社寺建築の「組み物」に関心を持ち独学で研究。その腕を認められて戦後の社寺の修復に実力を発揮しました。



総持寺の修復に携わった勾欄をもとに、自宅細工場に欄間として復元

浅草寺観音堂の御宮殿（本堂御本尊安置殿）

上野東照宮 国重文の唐戸

池上本門寺五重塔（国重文）唐戸・勾欄

東京国立博物館の奈良唐招提寺金堂の模型制作

高倉寺観音堂 国重文の観音像・唐戸・花頭窓・須弥壇その他。雄司さんと共に作業に当たり評価の高い仕事を数多く残しています。

6月に新築予定 慣れ親しんだ細工場での雄司さん



高倉寺の観音様を彫っている故仙太郎さん



6月に新築予定 慣れ親しんだ細工場での雄司さん



技を支える道具も命（鉋大小各種）

仙太郎さんは社寺仏具に関わりながらも晩年は息子雄司さんに仕事を譲り、好きな木を細工することに専念しました。昭和五十五年七十九才で他界されましたが、そのとき雄司さんは四十三才、既にその技術を受け継ぎ独り立ちしていました。父の仕事の指導法といえは「一度つきりしか教えない、二度目は無い」一度つきりの緊張感。見るとやるとは大違い、見て聞いて考えて経験で学ぶしかありませんでした。それでも小さいときから父親の仕事を見るのが大好きだったので、ちとも苦にならず、楽しくて楽しくて。依頼の絶えない仕事も好きだからこそ続けられたと四代目。娘さんが三人、跡継ぎはいないけれど、情熱が形となったすばらしい仕事はすっと残って行くことと決まっています。

生涯学習とは、生きがいのある充実した生活を送るために 生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。



音楽大好き！
飯村先生(上)と前列左から
保さん、夏海さん、啓子さん



所沢のライブでボーカル
担当の保さん(中央)

なっちゃん一家 と音楽

宇居 保・啓子さん夫妻と
娘さんの夏海さん(高一)

エレクトーンを習っていた妻の啓子さんに次いでピアノを習い始めたのは小学校の先生をしている夫の保さん。娘のなっちゃんが生まれる前から音楽に親しむ家庭でした。

音楽教室に通うこと十七年、よちよち歩きのなっちゃんがピアノに向かうのは自然なことでした。今、なっちゃんのピアノから流れるメロディーを聞いて両親は「いつの間にか」と、その上達ぶりに目を見張っています。

三人の演奏する音楽のジャンルは多彩で、クラシック、ポップス、イーजीリスニング、

ニームミュージックまで。また、エレクトーンやピアノばかりでなく保さんはバンド活動にも挑戦、ボーカルとしてステージに上がり、ビートルズやS.M.A.P.のレパートリーで観客を魅了しました。

教室の発表会でなっちゃんの家が同じステージを踏んだのは、たった一度だけ。お互いの音楽観を尊重し、それぞれのペースで音楽を楽しむというのがなっちゃん一家の音楽のスタイルになっているようです。

教室ですと一家を指導してきた飯村礼子先生、大人のためのピアノ教室や多種楽器の指導は、三人三様の芸術的表現で世代を超えた音楽を楽しんでいってほしいです。と一家の音楽のこれからの展開に期待しています。

なっちゃん一家にとって音楽は空気のようなもの、でも音楽が大好き！その共通の気持ち、家族の大きく温かな絆となつていきます。

教室問い合わせ 飯村礼子さん
(04 2965 1533)



母娘でタップダンス

ぬかのぶ
糠信明美さん(母)・香織さん(小六)

母娘でタップダンスを習って二年半。始めは娘の香織さん(当時小四)が友達のタップダンスの発表会を見て感動し、自分もやってみたいと習うようになったのがキッカケでした。その付き添いとして一緒に通っていた母親の明美さんも、すっかり魅せられて二ヶ月後には習い始めたのです。

「あまりポピュラーなものではないので、やっている人が少ないということや足でとる打音のリズムが心地よいのが魅力ですね。一曲マスターした時の充実感最高です。また、タップを習う若い世代の人達とのコミュニケーションやステージを踏む緊張感など、すべてがいいんです。週に一度のタップダンス教室が楽しみです。」と明美さんは話してくれました。

一昨年の発表会では、レッス

ンクラスは違うものの、母娘で同じ曲に挑戦しました。家に帰っての切磋琢磨の練習では、娘さんの覚えが早かったために親子が逆転、お母さんが娘さんに教えてもらうことが多かったようです。

タップダンス教室「TAP ON AIR」の指導者・嶋崎千束さんは「タップ」というと、ちよつと昔のものという感じがしますが、最近の映画でも下駄のタップダンスが話題になりました。親子で学ぶ人は意外にいるんですよ。世代を超えて楽しんでいただけることができると思います。」

毎週木曜日、スワンパレエリートスクールでジュニア・基礎・初級のクラスが各一時間、二十三人が楽しく学んでいます。教室問い合わせ七月以降嶋崎千束さん(0492 76 7185)



嶋崎先生(右)の指導でレッスン中の糠信さん母娘



左から香織さん、明美さん、嶋崎先生、初級クラスの仲間たち



稽古風景

剣道を三世代で・・・

林 隆一さん

林さんの家族は、昭和五十四年に入間市に引っ越してきました。当時、隆一さんは学生時代に習った剣道を思い出し、妻の佳久子さんと相談し、子ども佳穂里さん(小三)と隆久さん(小一)に西武剣友会で剣道を習うことをすすめ、見学と同時に入会しました。

いつしか、隆一さんも体育館一杯に響き渡る気合と竹刀の音が懐かしくなり再開。妻の佳久子さんも美容と健康のため、始めることになり、ついに剣道一家となりました。

やがて、佳穂里さんが結婚し、その娘の佳那美さんも入会。昨年度の市の少年剣道大会では、佳那美さんが小学校四年生以下の部に初出場で準優勝。今年度の大会では、小学校女子団体の部で見事に優勝することができました。

林さんが、副会長を努める西武剣友会は、一般が約二十人、小中学生が約五十人。会長の宮臣さんのもと、のびのびと毎週二回(月・木曜日)の稽古に励んでいます。

林さん一家の当初の目標

親子・孫の三世代、合わせて剣道十八段



は、家族四人合わせて「剣道十六段!」でしたが、すでにそれは達成され十八段となり、今は二十段を目指しています。よかつたことは、剣道を通して家族の会話が增え、剣道だけではなく、いろいろな面でコミュニケーションが広がったことです。これからも親・子・孫と三世代で、できる限り剣道を続け、自己を鍛錬しながら家族の輪を広げ、地域づくりに貢献していきたいと語ってくれました。

塚田とも子さん

詩吟二世代そしてシャンソン



「両親が教えていた吼山流詩吟道を始めたのが四十七年前、まだ小学五年生でした。」と語る塚田とも子さん(号「嘉友」)。両親は詩吟吼山流の大総範、夫婦そろって大総範というのは初めてのケースでした。父・孝次郎さん(号「吼正」)は七年前に他界されましたが、母・志津子さん(号「嘉昭」)八十七歳。現在も週に四回、詩吟の会(吟詠会)の指導に活躍中です。昨年、その吟詠会が創立四十五周年を迎え、それによせて「嘉昭のひとりごと」と題した本をとも子さんの編集で出版しました。

とも子さんは会社勤務の傍ら、二つの教場で指導しています。

近年では、小学生を含む若い世代の人たちにもっと詩吟を知ってもらいたいとの熱意をこめ

て、演劇と詩吟を結びつけた通称「和風ミュージカル」という斬新な舞台の脚本・演出すべてを次々と手掛け、「俳人山頭火」「芭蕉の奥の細道」「春はあけぼの 枕草子より」などの作品を次々、上演しています。

平成十一年に大総範となったとも子さんですが、三年ほど前からシャンソンを始めました。今ではプロの歌手と肩をならべて年に数回のライブに出演しています。シャンソルは異なっても、音楽は世界共通。とても幸せ・・との言葉には情熱がこもっています。

親子三人がそろって大総範という実力派の詩吟二世代。とも子さんの意欲的な創作活動は、止まるどころを知らません。詩吟の世界が限りなく広がります。



和風ミュージカル枕草子フィナーレ



現役大総範の母
志津子さん八十七歳



新しいジャンルに挑戦するとも子さん



枯葉だけを肥料にする農法に挑む細谷さん



おふくらだいこん、みず菜、オートムゴエムなどの農作物

先祖伝来の人間(宮寺)の土を豊かに・・・

ほそや農園
細谷光利さん

細谷さんが先祖伝来の畑五反(一、五〇〇坪)で農薬や化学肥料に頼らない昔ながらの伝統農法に取り組んで一年経ちました。宮寺の農家に生まれ、東京農工大学大学院で農学研究科を終了し、食品専門商社に就職。世界各国の農業、酪農、養鶏などを見る機会に恵まれました。二十六年間勤務の後に退職し、宮寺の地で「土をいたわる」農業(LISA)を始めたのです。

「土は多くの物を生み出すもです。土が豊かになれば、生命力のある野菜ができます。病気などしない健康な野菜に農薬は要りません。」とはいえ、基本の土作りやそれに適する野菜の品種の選択、また管理のツツの把握など、まだまだ時間も手間も掛かります。当面は試験栽培。味や見栄えも重要ですが、なかなか規格に合う物にはなりません。まずは新鮮で安全な野菜の生産ということが重要なテーマとなります。

そうして、生産されたものを毎週火・木・土の午後三時から東町の自宅ガレージで直売しています。細谷さんの考え方に理解のある支援者や安全な野菜を求める人たちが集まってきました。

「初めて採れたチンゲン菜を試食用にお配りした時、励みにして」とお金をくれた人がいました。電話一本で何千万円の取り引きをしていた元商社マンが初めて手にした「汗の結晶」。この時の感謝と感激を忘れず、丹精込めた「土のぬくもり」をお届けできるよう頑張ります。

数百年続く宮寺の土、人間の土が自然との調和を第一にした生命の基となり、まさに母なる大地となる日が楽しみです。

生涯学習アラカルト

第9回 生涯学習フェスティバル報告

第9回いるま生涯学習フェスティバルが、昨年11月30日(日) 入間市産業文化センター、児童センター、図書館本館、彩の森入間公園他周辺で6,000人の市民が集い盛大に開催されました。会場は夢いっぱいイベントや展示などであふれ、年に一度の楽しい一日で賑わいました。次の第10回生涯学習フェスティバルの開催を目指して早くも2月から準備がすすめられています。



あなたの「学び」のお手伝い
生涯学習情報を紹介しています!!

いるま生涯学習ガイドブック
市主催の講座、イベント、大学の公開講座等

いるま学びの場
公民館活動サークルや市内の民間教室等

市役所(市政情報コーナー)や公民館などでご覧いただけます。問い合わせは生涯学習課まで市の公式ホームページでも紹介しています。アドレス www.city.irimasa.itama.jp



「茶の都出前講座」

市職員がご希望の日時、場所に各種講座をお届けします。

— お問い合わせ・連絡先—

企画編集：「かがやく」編集委員会

発行：入間市教育委員会生涯学習課



〒358-8511

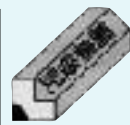
入間市豊岡 1-16-1

TEL 04-2964-111(内4123)

FAX 04-2964-4841

人は十人十色、いろいろな生き方があります。うまくいかないとき、に諦めてしまう人もいれば、何世代にもわたって研鑽を積む人もいます。先代の仕事を称賛しながら謙虚にその仕事を受け継ぐ姿や世代の違いを超えて一つのことに打ち込む姿に出会うことができました。

生涯学習をすることの努力の積み重ねに、まさに「継続は力なり」という言葉を実感しました。(土屋)



人は十人十色、いろいろな生き方があります。うまくいかないとき、に諦めてしまう人もいれば、何世代にもわたって研鑽を積む人もいます。



古紙配合率100% 再生紙を使用しています。 白色度70%

編集スタッフ 池田静子・新宅かよ子・高橋利久・土屋照子 (五十音順) 西垣寿夫・長谷川正子